内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2004年7月）

◎内海事務総局長から

イランを訪問して、不知と誤解に恥じ入りました。

首都テヘランは、高層ビルと交通渋滞の近代都市、イスファン、シラーズは、まだ観光開発で毒されてない美しい古い都、また、女性は、イスラムの服装を着ているものの、ボーイフレンドと一緒に歩いていたりして、若者たちは明るい顔、そして街路は、きれいに清掃されている。

シャーの政策に反対して革命を起こした若い世代が政権の幹部になり、お会いした副大統領も、郵政大臣も皆、学生時代に革命に参加し、投獄された経験を持った人たち、そして西欧で博士号を取得しているインテリばかり。

私と同行したアフガニスタンの郵政大臣は、テヘランで建設現場の工事人で働いたこともある苦労人。彼がテヘランで働いていた十数年前と比べて、とても明るく、また、いろんなものがコマーシャル化したとのこと。

米国大統領に悪の枢軸と呼ばれているイランのイメージは一切なかった。

この国は、ペルシャ時代からの伝統と石油や天然ガスを生産する裕福な国である。

◎7月の事務総局長の主な動向

7月1～2日　APT　ICT開発に関する大臣会合

アジア・太平洋電気通信共同体（APT）設立25周年を記念して、同大臣会合が開催されオープニングセレモニーでスピーチをしました。ナラヤンAPT事務局長をはじめAPT事務局総出で準備されたこともあり、13か国から首相や大臣が出席して、ICT開発やアジアブロードバンド計画についてハイレベルでの意見交換が行われました。APTは、ITU憲章で言う地域電気通信機関であり、この25年間、良好な協力関係をベースに互いの発展を支え合ってきました。この協力関係に敬意を表し、ITUから感謝状とメダルを渡しました。

日本からは麻生総務大臣が出席され、「U-Japan構想」やユビキタスネットワーク社会実現の重要性を訴えられました。APTの大臣会合ということで、旧知の大臣らも多く出席し、会議場内のあちらこちらで大臣談議に誘われ、多くの意見交換をすることができました。

また、同時期に独立行政法人情報通信研究機構（NICT）のアジア研究連携センター設立1周年記念式典がバンコクで行われ、20年ほど前に日本でATRを設立する際に、ご協力いただいた長尾理事長に再会でき、お話を伺えたことは、大変うれしいことでした。

7月7～9日　Spam対策　WSISテーマ会合

世界のメールのトラフィックの約8割を占めるといわれるSpamの国際的な対策について意見交換を行い、有効な対策について議論するWSISテーマ会合をオーストラリア通信庁長官代行のホートン氏を議長にして開催しました。各国、各事業者のSpam対策について紹介されましたが、日本で効果をあげている携帯電話に対するSpam対策は、今後のモバイル社会の良い前例として注目されていました。また、各出席者の意見が一致したところでは、各国独自の対策では効果が限定的であり、国際協調による対策が有効であるということです。同会合直前に、英国、豪州、米国の間で商業e-mail対策の覚え書き（MoU）が締結されましたが、このような各国間での協力関係を大きくしていくことが有効なようです。この会合の反響は大きく、各国のメディアで会合の模様が報道されていました。

7月11～15日　テヘランテレコムサミット、イラン公式訪問

昨年よりイラン政府から公式訪問の依頼を受けていて実現しなかったイラン公式訪問でしたが、私の訪問に合わせて中近東アジア諸国の電気通信大臣会合（テヘランテレコムサミット）を開催していただけるという申出もあり、今回イラン公式訪問が実現しました。大臣会合では、イランの副大統領、通信大臣に続いてスピーチをしました。中近東諸国では、電気通信に関する国際的な組織はITUだけと言えるほどに、ITUに期待している部分があって、電気通信のすべての活動にITUが関与することを基本的に支持している国が多いです。

また、これら中近東の通信大臣たちと、イランの地方都市（イスファン、シラーズ）に視察に出掛ける機会がありましたが、手付かずで残る多くの歴史遺産があり、将来の観光資源開発が十分になることに驚きました。今回、イラン政府は、多数の大臣受入れ、大臣会合の進行、大臣らの地方都市視察など、すべてを問題なくスムーズに行い、開発途上国とは言うもののとてもしっかりした国だとの思いを新たにしました。

7月28～31日　モンゴル公式訪問

モンゴル政府からも何度となく公式訪問の要請を受けていたところ、やっと今回訪問できることとなりました。モンゴル国会議員選挙が行われた直後で、厳しい政治状況のなかでしたが、バガバンディ・モンゴル大統領をはじめ、多くの関係者と面会することができました。日本政府ODAによるネットワーク設備整備や、モンゴルでの携帯電話会社が日本企業の資金で設立されたりと、日本とモンゴルとは密接な関係にありますが、最近では韓国からの出資及び援助が増えていることなどの説明を受けました。

また、広大な国土に250数万人の国民が住んでいるモンゴルですが、約40万人が遊牧生活をしているということで、通信ネットワーク整備の重要性については政府をはじめ皆理解していて、今後のITUからの協力が期待されました。

“イスファハンのハージュ橋で涼む人たち”　撮影：内海善雄